

春風秋霜 2月号

平成29年2月1日
島田市教育委員会日より
教育長 濱田和彦

春風をもって人に接し、秋霜をもって自らを慎む 佐藤一斎

1 子供に教えられること

1月の初旬、ある会社の社長からこんな話を聞きました。

家族同伴の社員旅行に行った時、社長が、同行したお孫さんの誕生日プレゼントを買ったので、同じバスの中にいた社員の子供にもお土産を買ったそうです。

その子の父親である社員にプレゼントを渡す時、社長が「おまえっちの小僧にも土産を買ったぞ。」と言ったら、お孫さんに、「爺じ、そんな汚い言葉をつかっちゃいけないよ。言われる人の気持ちを考えなくては駄目だと、学校で教わったよ。」と言われたそうです。

社長は、「孫に言われたことだけに反論もできず、大変恥ずかしい思いをしたけれど、孫に教わった」と話してくれました。

学校では様々な指導をします。その指導の効果は、校内の子供の表れで評価することが多いのですが、本当の指導効果は校外の姿に表れると思います。この社長のお孫さんは、附属浜松小学校の3年生だそうですが、教師としてはこのような子供を育てる指導を試みたいものです。

2 失敗から学ぶもの

私は、家で野菜を栽培していますが、ちょっとした油断が取り返しのつかない結果になってしまいました。1月の中旬に畑にヒヨドリが数羽降りていることに気付きました。ヒヨドリは冬場に山から群れで下りて来て、果物や野菜を食べることは知っていましたが、数羽だったので、畑に行つての確認はしませんでした。しかし、1週間後に畑に行ってみると、約200本近いキャベツやカリフラワーの苗は、葉の芯を残すだけの悲惨な状態になっていました。



私は、「違和感を大切にしてほしい」と教育委員会や学校をお願いしてきました。しかし、自分自身がそれを怠った結果がこの被害です。実は、ヒヨドリは数羽ではなく、30羽ほどが毎日畑に来ていたそうです。家族にヒヨドリの話をするか、畑に足を運んでいれば、被害は防げたはずですが。被害が大きくなってからネットを張って対策をしても、期待するような収穫は難しいと思います。

「違和感を大切にする」「情報を共有する」「現場主義を大切にする」等は、危機管理の鉄則です。これらのどれかを疎かにすると、私のような失敗につながります。

3 校長面談を終えて

1月18日(水)、23日(月)に校長面談を行いました。今年の特徴は、「学校が楽しい」「授業が分かる」と答えた子供の割合が80%を超える学校が大変多かったことです。中には、90%を超える学校もありました。このような学校は、子供の頑張りの価値付けを大切にしています。価値付けを大切にするためには、子供一人一人をしっかり見なくては

なりません。教師にしっかり見守られ、誉められることによって、子供の自己肯定感が高まるので、このような好結果につながっていると思いました。

また、「職員の笑顔が増えた」と言う校長も多かったと思います。職員の笑顔は、学校が組織として機能しているバロメーターだと思います。どんな困難な状況でも笑顔がある組織は、その困難を乗り越えられます。以前、危機管理として提案した『笑顔・やりがい・仲間』を大切にしていた学校が増えていることに感謝しています。

4 成人式を終えて

今年の成人式は、これまでになく落ち着いた成人式でした。式典中の市長挨拶や来賓挨拶が行われている間に席を立つ成人もなく、二部のリオオリンピック・パラリンピックに出場した三選手のメッセージや大塚ハレルヤ君の三味線演奏も成人の皆さんの心に届いたと思います。

しかし、式典会場の外では、お酒をラップ飲みする成人の姿もありました。このような若者に対し、金谷中学校の旧職員が体を張って関わっていたことを忘れてはなりません。5年前に様々な問題行動を起こした生徒であっても、この先生方が彼らとしっかりつながりを築いていたから、お酒を取り上げても話ができたのだと思います。

子供たちは、どんな成長を遂げるか分かりません。そのため、どんな子供も見捨てず関わりを持ち続けることが大切だと思います。今年の成人式を通し、つながることの大切さを実感しました。

肘かけ椅子

南條 隆彦

社会教育課長

『議論<雑談<対話』

人工知能（AI）の行く末が気になる。AIは人格を持つのか。

NHKスペシャル「進化する人工知能ついに芸術まで！」で「売れる絵を描くのはAIの方が得意」とのドワンゴ川上社長に対し「それでAIが芸術家を凌駕したといえるのか」とタレントで美術評論家の山田五郎氏が反駁。「AIは大作家のデータから売れる絵を描く。芸術家の模写は不完全が故にそこに創造が生まれる。」と。

AIが創造性や人格を持つかは、総務省が情報白書で示すとおり、それ以前の知性や知能の定義が定まっていない今日、かみ合わない議論と思う。

山田氏の言うように、人の脳が、その資源（リソース）に限りがあるからこそその進化を遂げてきたと考えると、昨今の脳科学や行動科学の研究結果が腑に落ちる。足りない、間違えるが真骨頂なのだ。そしてこのリソース割当てを最適化するのが原始的生物から進化してきた「集中力」などの感情機能と多様性戦略。リラックスしているといいアイデアが出るのはこのためだ。ひとりでは間違えるから、より多くの個体に多様な知見を求める。

だから理屈っぽくて、長くてつまらない「議論」は、実は人に向いていない。気楽な「雑談」では、思いつきが沸いて出る。さらに心理学や行動学から編み出されたファシリテーション手法でよく設計された「対話」なら、もっと効率的に最適値を求めることができるし、なにより、やってておもしろい。よりよい「対話」は最強だと思う。